

文化・芸術

「ヤマギワ国際照明器具コンペ入賞作品展」

1968年、シルクスクリーン、紙
103・0センチ×72・8センチ

亀倉雄策（1915～97年）

紫、青、緑、黄の縁取り、この色層の幅でない、この明滅の効果をあげないという亀倉雄策の名作ポスターです。

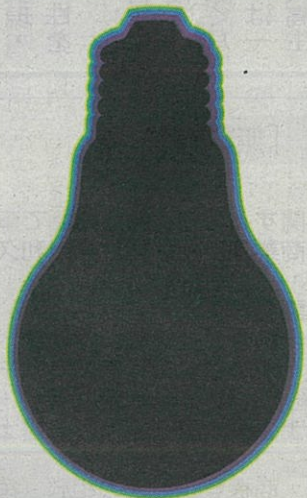
亀倉のポスターデザインの特徴のひとつに、効果的にあつかわれる黒の表現があげられますが、照明コンペのイメージであり、ある意味では山際（ヤマギワ）の企業イメージにもつながるといわれた本作では、その巧みさが際立ちます。「一種の発明だと思う。電球だから明るいという常識を、逆に真黒にした」とがタタイスティックで面白い」とは、本作を語った亀倉の言葉です。

ところで、1966年、ヤマギワは、このポスターに先駆けて、会社のマークを亀倉に依頼しています。この縁はやがてイサム・ノグチの明かりとの出会い、さらにはリビング・デザイン・チームのなかで北欧のデザイナーらとの照明器具の開発へとつながっていきました。明かりを厳選してきた企業の個性は、亀倉の柔軟な発想との出会いによって、一層の輝きを放ったのでした。

（小此木）
「グラフィックデザイナー・亀倉雄策」は7月12日まで

大川美術館企画展から

《名画の扉》



ヤマギワ国際照明器具コンペ入賞作品展
大川美術館 企画展「名画の扉」